

大阪 再稼働中止しかない 大飯原発見学ツアーで学習

原発立地自治体の現状を学習して原発ゼロの運動を強めようと、福井県の大飯原発や風力発電所などをめぐるバスツアーが6月16、17の両日に取り組まれ、協会からは小山榮三理事・相談役と事務局が参加した。「原発ゼロの会・大阪」が企画し、府内から21人が参加した。



防潮堤の工事が始まった大飯原発1～4号機

16日には、おおい町議会で再稼働にただ一人反対した猿橋巧町議と懇談したほか、海上から原発の見学を行った。

おおい町(人口約8800人)は、電源3法交付金によって、年間予算は同規模の自治体の4、5倍もあり、豪華な小学校や体育館などの建設を推し進め、現在も10億円のバスツアーが計画されている。バス車中の懇談会で、猿橋町議は、町内には原発関連で働く住民も多く、再稼働容認の意見も少なくないと指摘しつつ、「(再稼働は)安全性が確実に保たれてから」という言葉が共通と語った。過疎地の雇用問題では、働く場所があればあえて原発はいらないという声が聞かれた。

2日目は、あわら市内にある「あわら北潟風力発電所」を見学したほか、美浜原発PRセンターでは、職員から防潮堤設置などの「安全対策」について説明を受けた。参加者からの「重大事故で琵琶湖の汚染が起こった場合はどういった対処をするのか」との質問に、「事故が起こらないように安全対策を取っている」と、「安全神話」に終始した。

ないというのが住民多数の声と紹介。仮に廃炉にしても、原発を解体するための一基あたり800～1000億と言われる「廃炉ビジネス」で雇用が生まれると指摘し、「廃炉を展望し、再稼働中止の世論をいっしょにつくって行きたい」と訴えた。懇談前には大飯原発を観光船で遠望した。大飯原発では既存の防波堤(1・6号)をかさ上げし、放水口の開口部を15度の壁で囲む工事などが進められているが、完成は2015年という。参加者から、「あんな堤防で津波が防げるのか、再稼働は中止しかない」と感想が出された。

同市では特産品の甘藷畑の中に、J-POWER R(旧電源開発)が運営する10基の風車が2011年1月から稼働しており、年間約1100世帯分の年間消費電力に相当する約3840万キロワットを発電している。

美浜原発PRセンターでは、職員から防潮堤設置などの「安全対策」について説明を受けた。参加者からの「重大事故で琵琶湖の汚染が起こった場合はどういった対処をするのか」との質問に、「事故が起こらないように安全対策を取っている」と、「安全神話」に終始した。



原子力研究の説明を受ける筆者(左端)

京大原子炉見学記 後

『原子炉お節介学入門』の著者・柴田俊一先生は、京大名誉教授、原子力委員会、日本原子力研究所、原子力文化振興財団など広く活躍されている。本の帯に、推薦文を書かれているのは、平岩外四氏。経団連元会長、福島原発事故で話題になっている東京電力元社長その人である。

戦前、日本で核爆弾の研究を始めようとしたのは京大で、東大ではなかった(という私の記憶がある)。原稿を頼まれてからいただいた本を丁寧に読んだ。素人にはかないというのが住民多数の声と紹介。仮に廃炉にしても、原発を解体するための一基あたり800～1000億と言われる「廃炉ビジネス」で雇用が生まれると指摘し、「廃炉を展望し、再稼働中止の世論をいっしょにつくって行きたい」と訴えた。懇談前には大飯原発を観光船で遠望した。大飯原発では既存の防波堤(1・6号)をかさ上げし、放水口の開口部を15度の壁で囲む工事などが進められているが、完成は2015年という。参加者から、「あんな堤防で津波が防げるのか、再稼働は中止しかない」と感想が出された。

り読むづらかった。しかし、私の疑問にはどんびしやりで、疑問は氷解した。

内容は、こんなに工夫して危ない原子炉の細部まで設計したと言うファイデアや苦勞話のオンパレード。彼の念頭にあるのは、いかに広範囲に原子炉の活用を広げるかばかりで、この文明の利器が国民にどんな利益・不利益をもたらすかには全く関心がなかった。

本の表紙には、堂々と「名馬『原子力』から信頼される騎手になるために」とあった。本人自身、原子炉は本質的に危険なものと認め、人間が安全にすることができ、そうしなければならぬ。

発そのものを研究しているわけではなかったが、それ以上に核のいっそう広範な利用を目指す多方面な研究で問題をはらう大きな。つい先日、テレビでイス政府担当者が、原発の安全性を第一に新しい技術開発をすべての既成炉に取り込み、絶えず改良を続けてきたが、こんなに費用がかさんでは

経済的にも成り立たず、無公害エネルギー開発に国の基本的政策を変えたのだった。

日本の炉は全て作った時のままで、既存炉の絶えざる改善などにもななかった。安全に対する意識の違いは雲泥の差である。

最後に私の意見を述べたい。そもそも原子力発電という発想そのものが異常ではなかったのか。核を使用すれば必ず核廃棄物が生まれる。長年にわたって放出される放射能は、誰にも、いかにしても止めることはできない。始末のできない、

容認できぬ核利用研究

新聞部 永田 悦夫

講習会へ参加ご希望の方は、必ず事前に協会までお申し込み下さい。

協会行事案内

お申し込みは 電話 06-6568-7731
ファクス 06-6568-0564

7月度生涯研修
矯正をめざすGPPのための診療ノート

日時 7月22日(日) 午前10時～午後1時
会場 M&Dホール 定員 1000人
講師 土屋雅文氏(神戸市開業)
会費 会員3千円、未入会者1万円

南河内地区
「デンタル・パラマの読影法」(仮題)

日時 7月26日(木) 午後6時30分～8時30分
会場 保険医会館 定員 50人
講師 内田百夏氏(大阪大学大学院歯学研究所・歯科放射線学教室助教)
会費 会員無料、未入会者1万円

未入会者とは、会員院所に勤める勤務医未入会者です
※協会行事などを本紙等で報道・紹介するため、講習会などの写真で個人が特定されることがありますが、趣旨をご理解の上、ご了承ください。また、講習会でのビデオ撮影や録音はお断りします。

三島地区
ハイリスク患者に対する口腔ケアおよび摂食嚥下障害の対応の実際と課題

日時 7月14日(土) 午後6時～7時30分
会場 高槻市立生涯学習センター3階 研修室
(JR「高槻」・阪急「高槻市」駅から徒歩8分)
講師 河合利彦氏(市立普賢病院嘱託医)
会費 会員無料、未入会者1万円 定員 50人

第2回
7月21日(土)午後6時～8時 内容【手術、歯周疾患、歯冠修復・ブリッジ、有床義歯】

会場 M&Dホール(保険医会館東隣り)
講師 社保研究部講師団 定員 1000人
※「歯科保険診療の研究(2012年4月版)」をテキストとします。ご持参ください
会費 会員無料、未入会者1万円

大阪市西部・東部・南部地区
個別に応じた心配りを
接遇・マナー講習会開く

協会の大阪西部・東部・南部地区は6月17日、「洗練された接遇・マナー講座(基礎編)」を開き、歯科医院スタッフ12人が参加した。講師の西出知子氏(接遇インストラクター)は、「患者の『不安・不満・不信』という『三つの不』を取り除き、『安心・満足・信頼』に変えていくためには、医療技術とともに接遇技術のスキルアップが大きな要素になる」と述べ、患者一人ひとりの心境に応じた心配りの重要性を強調した。参加者らは身だしなみやあいさつ、言葉遣い、お辞儀などの解説を受けたあと、ロールプレイングに取り組んだ。

大阪市東部・北部地区
これからの歯科医療―歯の噛み合わせと全身の健康について―

日時 7月8日(日) 午前10時～正午
会場 M&Dホール 定員 1000人
講師 池上孝氏(岡山市開業)
会費 会員無料、未入会者1万円

堺・高石・和泉地区
今さら聞けないパーシャルデンチャーの基礎part2
維持装置から連結子まで遊離端症例を用いて

日時 7月14日(土) 午後7時～9時
会場 サンスクエア堺(JR阪和線「堺市」駅から徒歩3分) 定員 50人
講師 山上博史氏(堺市開業)
会費 会員無料、未入会者1万円